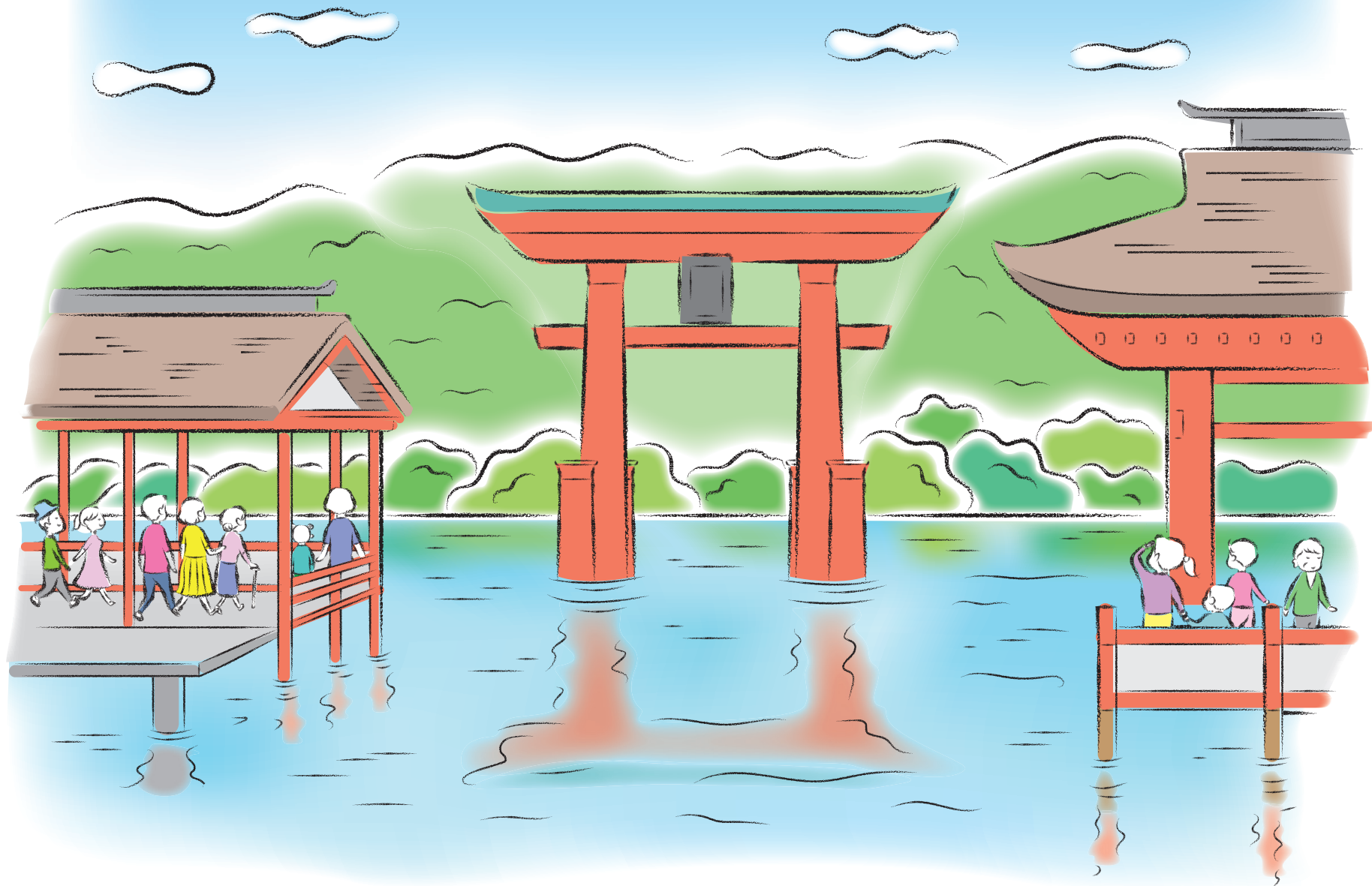




知っておきたい！ 健保のコト

VOL.62

10月から始まる長期収載品の選定療養

「選定療養」とは、保険診療との併用が認められている保険外診療の1つで、①快適性・利便性にかかるもの②医療機関の選択にかかるもの③制限回数を超える医療行為——が該当します。よく知られているものに、特別な療養環境の提供（いわゆる差額ベッド）、200床以上の病院に紹介状なしで受診した場合に初診時や再診時の窓口負担（1～3割）とは別に徴収される負担、時間外診療時の負担などがこれに該当し、その費用は全額自己負担となります。

2024年度の診療報酬改定の一環として、後発医薬品が存在する長期収載品（特許切れ先発医薬品）の使用についても、10月から選定療養の仕組みを導入することが決定されました。具体的には、医療上の必要性がないにもかかわらず、あえて後発医薬品ではなく長期収載品の使用を希望した場合に特別な負担をお願いするもので、長期収載品と後発医薬品の差額の4分の1を保険適用外とする仕組みになっています。

選定療養の対象薬剤は、長期収載品のうち、国が定めた一定の基準に該当した1095品目（445成分）となります。幅広い疾患の治療薬が対象となっていますが、患者の負担を増やすことが目的でなく、より後発医薬品を使用してもらい患者負担と保険給付の両方を軽減するための仕組みです。

長期収載品の選定療養については、今後、改めて本欄で取り上げます。

さて、4月末時点のマイナバーカードの保有状況ですが、9238万枚で人口に対する保有率は73.7%、健康保険証としての利用登録は7255万枚で登録率は78.5%です。実際にマイナ保険証を医療機関で利用された方は、4月分

を行いました。

この5月からは、新規の誤り事案の発生防止に向けた取り組みとして、新規加入者の登録時に、全てのデータについて住民基本台帳情報とのシ「習うより慣れろ」という言葉があります。まずはマイナ保険証を使って、より良い医療が受けられる等のメリットを実感してみてください。

医療界、保険者、経済界の代表らが集う「日本健康会議」は4月25日、マイナ保険証の利用を促進するため「医療DX推進フォーラム」を使ってイイナ！マイナ保険証——を開催。フォーラムでは、本年5月から7月までを「集中取組月間」と位置付けた上で、「医療機関・薬局、保険者、事業主、行政など、医療に関わる全ての主体が一丸となつて、マイナ保険証の利用促進に取り組みます」などとする「マイナ保険証利用促進宣言」を行いました。

以前問題となつた登録データの入力ミスについては、昨年11月までに全ての登録済データの住民基本台帳情報との突合を完了し、さらに確認が必要な139万件については本年4月までに保険者等による確認作業が終了しています。

12月2日の健康保険証の廃止まで6カ月を切りました。同日以降、マイナバーカードに健康保険証の機能を持たせた「マイナ保険証」を基本とする仕組みへ移行します。

の実績で6.56%ですが、内訳を見ると病院が13.73%で最も高く、次いで歯科診療所の10.91%。一方、内科診療所と薬局が5%台でした。ただし、厚生労働省が行ったアンケート調査では、マイナ保険証を利用したことがあると回答した方の67.7%、約3人に2人がマイナ保険証を「今後も利用したい」と回答しています。

健康保険証の廃止まで半年を切る マイナ保険証への理解と利用を

★ Special Issue

すこやか特集

死に至ることもある

「ダニ媒介感染症」

アウトドアやガーデニングでも

適切な防御が必要です！

いよいよ夏本番、海へ山へと

アウトドアの季節が始まりました。

最近はキャンプやハイキングなどに加え、

ガーデニングや家庭菜園などを楽しむ人も

増えているようです。

そんな屋外の活動で注意したいのが、

マダニに吸血されることで発症する「ダニ媒介感染症」。

これまでもこの感染症による死亡例が

複数報告されています。

今回はダニ媒介感染症について

国立感染症研究所の前田健先生にお聞きしました。



屋外活動で気づかずに
マダニの被害に

ダニと聞くとアレルギー性鼻炎やアトピー性皮膚炎などの原因となるヤケヒョウヒダニやコナヒョウヒダニなどを思い浮かべる人が多いと思いますが、今回、取り上げるのは屋外の野山を生息地とするダニ、主にマダニです。

アレルギーの原因となるダニは体長0.3〜0.4ミリですが、マダニの成虫は3〜8ミリと大きく、吸血すると10〜20ミリに膨らむので肉眼で見ることができます。このマダニに吸血されて発症するのが「ダニ媒介感染症」です。

アウトドアでのレジャーやガーデニング、農作業などで、無防備にマダニの生息地に入

ることで、刺されて吸血されます。吸血したマダニがウイルスや細菌などを保有していると感染する可能性があります。主なダニ媒介感染症には「日本紅斑熱」「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」「ダニ媒介脳炎」「クリミア・コンゴ出血熱」「回帰熱」などがあります。他にもマダニではなく、ダニの一種であるツツガムシに吸血され発症する「つつが虫病」があり注意が必要です。

マダニは人に付着すると皮膚を動き回って刺す場所を探します。比較的やわらかい脇の下や足の付け根、手首、膝の裏、胸の下、頭（髪の毛の中）などに吸着し、吸血するための口器を皮膚に刺し入れます。口器からセメント物質を分泌して皮膚にしっかりと固着し、麻酔性がある物質が含まれた唾液を出しながら吸血を始めます。そのため刺されたことに気が付かないケースも多いのです。

事前の防御が肝心
刺されたときは医療機関へ

自然界に生息しているマダニをすべて駆除することはできません。ですから野山はもちろん、市街地でも草むらややぶなどに入るときには、事前にマダニ対策を行うことが大切です。

服装は長袖、長ズボンで、帽子を被り、足を完全に覆う靴を履きましょう。イラストを参考に、服の中にマダニが入り込まない対策をしてください。最近ではマダニ除けの効果成分が認められた「ディート」「イカリジン」という成分を含む忌避剤も市販されています。ただしディートは成分の含有率によって子どもには使えないタイプもありますので、購入の際は用法や容量をよく確認することが大切です。

帰宅したら上着にマダニがついていないかを確認し、家の中に持ち込まないようにします。シャワーや入浴はマダニを確認し、洗い流すためにも有効です。

もし皮膚に吸着しているマダニを見つけたら無理に取らずに皮膚科など医療機関で処置を受けましょう。吸着したばかりならピンセットなどで引き抜くことも可能ですが、吸血中のマダニを無理に取ると、口器が皮膚に残って化膿したり痕が残ったりすることがあります。

マダニに刺された後、またアウトドアを楽しむんだ後に、発熱、発疹、下痢、嘔吐などの消化器症状、しびれ、まひなどの神経症状が現れた場合は、すぐに医療機関を受診してください。ダニ媒介感染症は、処置や治療が遅れると重篤な症状に陥り、死に至るケースがあります。治療の際、医師に行った場所、時期、活動内容などを伝えましょう。

とはいえ、もしマダニに刺されたとしても、感染症を引き起こすウイルスや細菌を保有している可能性は低いので、過剰に心配する必要はありません。ただ、「植物があるところにはマダニがいる」「ダニ媒介感染症で重篤な症状を来す人がいる」「事前に防御すれば防げる」などを知っておくことがとても大切です。

◎主なダニ媒介感染症

感染症 【感染源】／原因菌	症状・治療	その他
日本紅斑熱 【マダニ】／リケッチア・ジャポニカ（細菌）	潜伏期間2〜8日。頭痛、発熱、倦怠感など。進行すると血小板低下や臓器障害で重篤になるケースも。 【治療】テトラサイクリン系抗菌薬	1984年に日本で初めて報告された。関東より西の地域で多く報告がある。
つつが虫病 【ツツガムシ】／オリエンティア・ツツガムシ（細菌）	潜伏期間5〜14日。発熱、刺し口、発疹、倦怠感、関節痛、筋肉痛、リンパ節の腫れなど。進行すると播種性血管内凝固を起こし重篤になるケースも。 【治療】テトラサイクリン系抗菌薬	以前は山形、秋田、新潟など東北・北陸地域の風土病だったが、現在は北海道や沖縄など一部の地域を除き全国で発生している。
重症熱性血小板減少症候群（SFTS） 【マダニ】／フレイボウイルス	潜伏期間6日〜2週間。発熱、消化器症状（食欲低下、嘔吐、下痢、腹痛）、頭痛、筋肉痛など。進行すると意識障害、リンパ節の腫れ、下血、血小板・白血球減少などを起こし致死率は約30%。 【治療】対処療法	2009年に中国で発見。日本では2013年に初めて確認され、年に100例ほど報告がある。西日本での報告がほとんどだが、今後東日本に広がる可能性も。人から人への感染、動物から人への感染も報告されている。
ダニ媒介脳炎 【マダニ】／フラヴィウイルス	潜伏期間2〜28日。発疹、頭痛、眼窩痛、関節・筋肉痛など。髄膜炎ではけいれん、めまい、知覚異常など。進行して脳炎を発症すると致死率20%以上。 【治療】対処療法	ウイルスは極東亜型、シベリア亜型、ヨーロッパ亜型がある。ヨーロッパ、アジアで増加傾向にあり日本では1993年に初めて発症が確認されたが、それ以降北海道で数件の報告がある。

◎野山に行くときは肌の露出を最小限に！

帽子を被って、首は冷感タオルやハイネックのシャツを。

洋服の色はマダニがついたときに見つけやすい明るい色に！

「ディート」「イカリジン」を含むダニ忌避剤は有効ですが用法・容量を守って。ただ効果の過信は禁物！

皮膚がさらされるサンダルではなく、足全体が隠れる靴を。

シャツの裾はパンツの中に、袖は手袋や軍手の中に。パンツの裾も靴下の中に。

夏や暑い日は「熱中症対策」も忘れずに！

Column 人から人への感染が確認されたSFTS

昨年、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の人から人への感染が確認されました。感染したのはSFTS患者の治療を行った医師で、最初の治療から11日目に発症しました。患者がSFTSと診断されてからは感染対策をしていましたが、その対策が不十分だった可能性があります。

SFTSは発熱や食欲低下、嘔吐、下痢、腹痛などの消化器症状を引き起こします。重篤化すると死に至ることもある感染症で、治療は対処療法にとどまるため十分な注意が必要です。以前から中国や韓国では報告がありま

したが、日本で確認されたのは初めてです。SFTS患者との濃厚な接触により感染しますので、一般にはヒト・ヒト感染を心配する必要はありません。ただ、旅行や仕事などでSFTSの発症が報告されている地域へ行く際には、十分な情報収集を行っておくことが大切です。



監修：前田 健先生
国立感染症研究所
獣医学部 部長

離れて暮らす親のケア

「いつも心は寄り添って」

介護・暮らしジャーナリスト

太田差恵子

vol. 148

認知症の母親が

テレビ通販で次々購入

テレビ通販が盛況のようです。商品の効果をあの手この手で解説してくれるので、「へーっ、すごい！」と見入ったことがある人は多いのではないですか。

隣県で一人暮らしをするＴさん（男性50代）の母親（81歳）は、軽度の認知症と診断されています。介護保険のサービスを利用し在宅で過ごしています。「2カ月ほど前、母親のケアマネジャーから連絡がありました。母親がテレビ通販で物を買っていることを把握しているかって。Ｔさんにとつて寝耳に水で、すぐに実家へ。母親に話を聞くと、「こんなのを買った」と嬉しそうに「鍋」を見せてくれました。「一つならいいのですが、パッケージのままの鍋やフライパンもあって絶句しました」とＴさん。

テレビ通販はクーリングオフ制度の対象外です。不意打ち的な勧誘によるものではなく、本人が番組を見て本人の意思で購入したもののからです。返品については個々の業者の特約で決められています。特約がない場合は、商品を受け取った日を含む8日以内であれば、購入者が送料を負担し返品できます。

本人には、「購入したいものがあれば、事前に連絡をして」とお願いしてみましょう。怒り



口調で言うと、困ったことが起きても相談してくれなくなるので冷静に。また、今後の対策について、主治医やケアマネジャーにも意見を求めましょう。似た事例は多いので、何らかのすべを考えてくれると思います。今後、認知症の進行度合いによつては、施設への入居や、判断能力が不十分な人が行った契約を取り消すことができる成年後見制度の利用も選択肢となるかもしれません。

ほっとひと息、
こころにビタミン

精神科医 大野裕

vol. 76

配属ガチャに
振り回されないために

一昨年、本欄で、生まれた環境によつて人生が左右されるというネガティブな意味で使われる「親ガチャ」について書きました。そうしたら最近、希望の職場に配属されなかったことに不満を持った新入社員が「配属ガチャ」という言葉を使っていると聞きました。

配属先に不満を持った新入社員は、せっかく入った会社をすぐに退職してしまい、条件の良い別の会社に再就職するのだそうです。しかも、代行業者に退職届を依頼する若者も少なくないと聞きます。

たしかに、会社のイメージが、入社前に自分が描いていたものと違ったり、仕事の内容が思っていたものと違ったりしたときに、我慢するのが良いとも限りません。でも入社を決める前に、その会社のことは十分調べたはずですよ。そのように時間をかけて決めた判断を短期間で変えると失敗する可能性が高くなります。

「配属ガチャ」だと不満を感じていると、良くない面ばかりが目につくようになって、冷静に状況を判断できなくなっている可能性が高いからです。実際に、早々と転職した人

Vol.88

COML 患者の悩み相談室

私の相談

両クリニックで紹介状の点数が
これは二重請求ではないですか？

私（43歳・女性）は7年前に子宮筋腫が見つかり、経過観察のため婦人科クリニックに通院していました。子宮筋腫は大きくなることも増えることもなかったのですが、1年前に**卵巣がん**が見つかり、紹介された病院で手術を受けました。卵巣がんは初期だったこともあり、術後は再び元のクリニックに戻って、定期的に受診をしています。

先日、婦人科クリニックの医師から「術後の経過観察として、しばらくは1年に1回MRI検査をした方がいいと思っています。そろそろ手術から1年たつので、連携している放射線科クリニックでMRIを受けてください」と言われました。放射線科クリニックには婦人科クリニックの受付のスタッフが電話で予約を取ってくれて、指示通り検査を受けてきました。放射線科クリニックでは医師から問診があり、撮影後は「結果は婦人科クリニックに画像データと読影結果を送っておきますね」と言われました。

検査の後、婦人科クリニックと放射線科クリニックの領収書を見てみると、どちらも「**診療情報提供料250点**」が請求されていると分かりました。調べると紹介状の点数のようです。婦人科クリニックで請求されるのは理解できますが、放射線科クリニックでの請求は二重請求になるのではないのでしょうか。

両方とも
250点？

回答

回答者
山口育子（COML）

確かに「診療情報提供料」とは「診療情報提供書」という紹介状の診療報酬点数です。例えば、A医療機関に検査や画像診断の機器がないため、B医療機関に対して、診療状況を示す文書を添えて検査の実施を依頼した場合には、診療情報提供料（I）250点の請求が可能です。これは婦人科クリニックではMRI検査ができないので、放射線科クリニックに対して発行した紹介状の点数です。一方、B医療機関で単に検査や画像診断の設備だけを提供した場合には診療情報提供料（I）の請求は認められていませんが、検査や画像診断の判読も含めて依頼を受け、その結果をA医療機関に文書による回答をした場合は、診療情報提供料（I）は請求できることになっています。つまり放射線科クリニックでの請求も妥当な請求ということなのです。

認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML（コムル）

「賢い患者になりましょう」を合言葉に、
患者中心の開かれた医療の実現を目指す市民グループ

電話医療相談 TEL 03-3830-0644

〈月・水・金 10:00～13:00、14:00～17:00／土 10:00～13:00〉

ただし、月曜日が祝日の場合は翌火曜日に振り替え



詳しくはCOML
ホームページへ



山口理事長が
パーソナリティを務める

賢い患者になろう！

ラジオNIKKEI 第1
第4金曜日17:20～17:40配信！
ポッドキャストでも聴けます

健康
マメ知識

すこやか特集 Part 2

マダニが吸血するのは一生に3回！

マダニは世界には800種以上が生息しているといわれていますが、日本で確認されているのは47種です。自然環境の豊かなところなら市街地でも、公園、河川敷、庭などの身近な場所にも生息しています。3月から11月にかけて活動が活発化しますが、温かい地域では冬でも活動していることが確認されています。

マダニは地面近くの草木の中において、その場所を通った野生動物や人などに吸着します。マダニは卵から幼虫、若虫、成虫へと成長する中で、各ステージに1回ずつ吸血するといわれています。つまり一生で3回吸血するのです。幼虫では約3日、若虫では約7日、成虫は10～14日ほど吸血を続け、満腹になると自然に脱落します。ペットの犬や猫に吸着することもあるので、散歩や外から戻ったときには注意が必要です。